

みすぐると腰砕けになることも説明した。

やがて各人が各テーブルに入り乱れて干杯の繰り返しであった。宴会最後には塩城市人民政府が我々に市政府指定の白酒「五醜泉」を一人一人にお土産を頂いた。こちらからは持参した京都西陣織のネクタイを渡し宴会は終了した。



9月23日（火）曇り

21日～22日の二日間は雨だったが、やっと雨が止んだ朝である。この日から我々一行は二班に別れ行動することになった。

見本会長と高田事務局長は宿泊先の維景国際大酒店を後に、午前08：00はるか400キロ程離れた塩城市へ、市政府が用意した車（広州本田製）で向かった。

他のメンバーは午前08：30観光バスで義烏市へ向かった。

塩城市訪問

杭州市から通訳の朱小姐と一緒に車で高速道路を使い一路、塩城市へ向かった。途中の高速道路パーキングで二回休憩し、塩城市新区へは12：10分到着、約4時間で到着した。

周囲は建築途中？で新しい建物が多く建設されていた。私は大連の1989年経済技術開発区建設当時を思い浮かべたが同じような光景であった。しかし空き地はまだかなり多い。

塩城市は丹頂鶴の生息地、そして顔が馬に似た鹿の生息地で有名であると聞いた。そう言えば、高速を出たところに丹頂鶴の形をしたモニュメントがあった。

我々二人は、昼食会場である新区美食街にある「塩城人家」へ案内された。この時参加した人は季衛軍塩城市外事弁公室副主任、施春陽処長、李春暉経済開発区招商四局局長、周曉晴外事弁公室副研究員が出迎えてくれていた。

通訳の朱さんと他1名（女性）も含め7名で塩城市の料理を頂いた。味付けは日本人好みの味であり大変美味しく頂いた。中でも名物料理である「対蝦」、スープ（湯）は大変美味しく久しぶりに日本的な味を堪能した。